

# 福島大学 教職大学院案内

大学院人間発達文化研究科教職実践専攻



## ふくしまの教育を支える ミドル・リーダーを育てる

福島のエデュケーション課題を認識し、新たなエデュケーションの探究により  
未来を創造する教員を養成する大学院

- ミドル・リーダー養成コース
- 教育実践高度化コース
- 特別支援教育高度化コース



授業力



新たな自覚



省察力



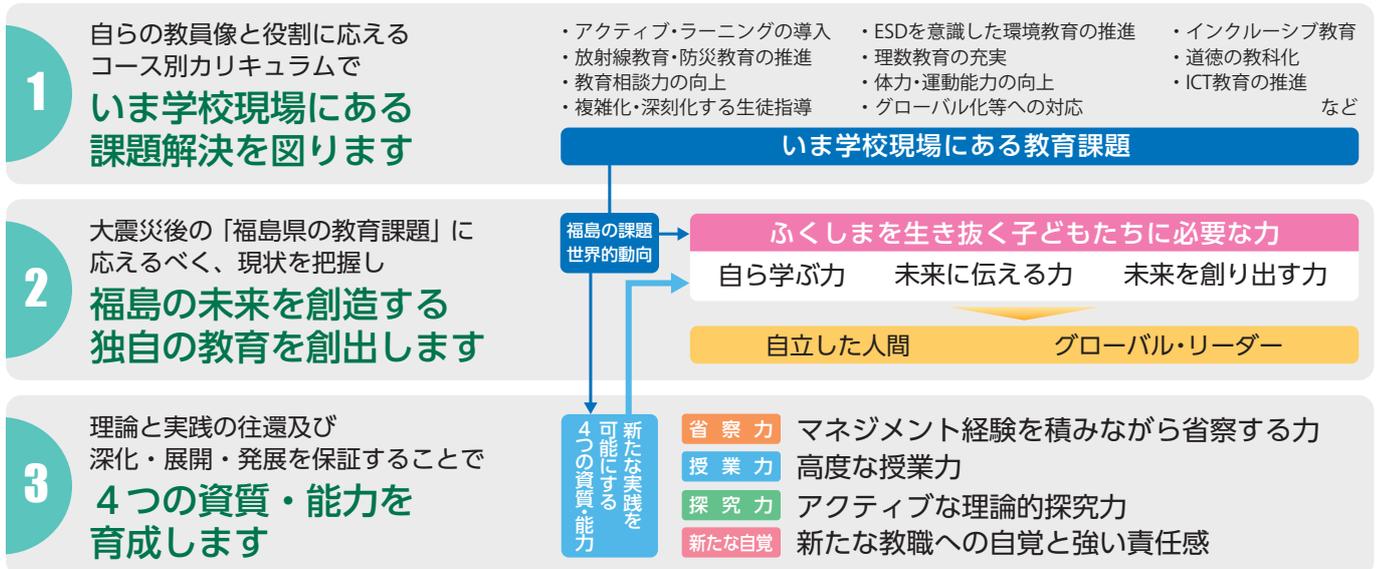
探究力

# 教職大学院とは？

学校現場の教育課題を研究し、その成果を地域や現場に還元していくことで、教員としての資質・能力向上を目指す大学院です。

福島大学教職大学院は、福島県教育委員会と教育課題を共有し、ふくしまの未来を創造する力を高めます。

## 福島大学教職大学院の特徴



## 理論と実践の往還



学校現場における課題と必要な理論をていねいにつなぎ、PDCAサイクルをベースとして、課題の発展的な解決を目指します。また、ミドル・リーダーとして、これからの福島における教育を支える「真に学び続ける教員」としての資質・能力を育みます。

## 各コースの特徴

教職経験や自らの教員像と役割に合わせて、「ミドル・リーダー養成コース」、「教育実践高度化コース」、「特別支援教育高度化コース」を選択します。

### ミドル・リーダー養成コース

#### 学年・学校経営課題への対応力を磨く



#### ★ ミドル・リーダーを目指す方

##### 教職経験10年程度以上の方

自らの教育実践力(授業力、生徒指導力など)をもとに、学期、年間等の見通しを持ち、学年レベル、学校レベルの課題に対応する力や、学校マネジメント力を身につけたい方

### 教育実践高度化コース

#### 基盤となる教育実践力を磨く



#### 次 次のミドル・リーダーを目指す方

##### 教職経験3年以上の方

1～2校で教職経験があり、様々な実践課題が見え始めた方で、さらに高度な実践力または学校マネジメント力を身につけたい方

※教職経験10年程度以上の方も選択できます。

#### 次世代 次の世代のミドル・リーダーを目指す方

##### 大学院進学を希望する学生の方

教員免許状(一種)取得見込みで、多様な現職教員と交流することを通じて、教育実践の課題を総体として理解し、学校教員としての自覚を持ちたい方

### 特別支援教育高度化コース

#### 多様化に応える教育実践力を磨く



#### ★ ミドル・リーダーを目指す方

##### 教職経験10年程度以上の方

自らの教育実践力(授業力、生徒指導力など)をもとに、学期、年間等の見通しを持ち、学部レベル、学校レベルの課題に対応する力や、学校マネジメント力を身につけたい方

#### 次 次のミドル・リーダーを目指す方

##### 教職経験3年以上の方

障害の重度化・重複化に対応できる専門性の高い特別支援学校教員を目指し、学校マネジメント力または高度な実践力を身につけたい方

※教職経験10年程度以上の方も選択できます。

#### 次世代 次の世代のミドル・リーダーを目指す方

##### 大学院進学を希望する学生の方

教員免許状(一種)取得見込みで、障害の重度化・重複化に対応できる専門性の高い特別支援学校教員を目指す方

## 教育課程

カリキュラムは、「共通5領域」、「選択領域」、「学校における実習」、「プロジェクト研究」に分かれています。また、理論と実践の往還を進める場であるラウンドテーブルに年2回参加・実践報告します。

科目領域		コース	ミドル・リーダー養成コース	教育実践高度化コース	特別支援教育高度化コース
理論	共通5領域 必修20単位	<b>現代的な教育課題への基礎対応力を形成</b>			
	選択領域 選択8単位	学校改革領域 学校マネジメント科目 学校改革科目	授業改善領域 教科横断型授業改善科目 各科授業改善科目	特別支援に関する理論と実践領域 特別支援に関する理論と実践科目	
理論と実践の往還		ラウンドテーブル			
実践	プロジェクト研究 必修8単位	学校課題対応プロジェクト研究 授業実践高度化プロジェクト研究 特別支援教育実践プロジェクト研究	実践の省察 → 課題の明確化 → 解決法探索 → 計画実践 → 分析評価 → 報告書作成 自らの課題を明確にして必要な理論・方法を学び 方策を計画・実践して結果を分析・評価		
	学校における実習 必修10単位	★ 学校課題対応実習 (中堅現職学生) ★ 教職専門実習Ⅱ (中堅現職学生) ★ 学校支援実習Ⅱ (中堅現職学生)	次世代 長期インターンシップⅠ・Ⅱ (学部新卒学生) 次 教職専門実習Ⅰ (若手現職学生) 次 学校支援実習Ⅰ (若手現職学生) 次 教育実践高度化実習 (若手現職学生)		

# 教職大学院での学びのイメージ

	1 年 生												2 年 生											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
共通5領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程編成実践研究</li> <li>授業づくりの理論と実際</li> <li>生徒指導の事例研究</li> <li>学校ガバナンスの事例研究</li> <li>福島の学校と教育課題 I</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>教材開発と教育方法の実践と課題</li> <li>学校カウンセリングの事例研究</li> <li>学校・学級づくりの実践研究</li> <li>公教育の理念と教育改革</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>学校と地域</li> <li>福島の学校と教育課題 II</li> </ul>											
選択領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的な学びで育成するための理論と実践</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>国語授業の理論と実践</li> <li>生活科・総合的な学習の時間に関する理論と実践</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的な学びで育成するための理論と実践 II</li> </ul>											
プロジェクト	教育実践高度化プロジェクト I <span>ラウンドテーブル</span>						教育実践高度化プロジェクト II <span>ラウンドテーブル</span>						教育実践高度化プロジェクト III <span>ラウンドテーブル</span>						教育実践高度化プロジェクト IV <span>ラウンドテーブル</span>					
学校における実習	.....カンファレンス..... 分散型モデル												.....カンファレンス..... 分散型モデル (学部新卒学生を除く)											

## ミドルリーダー養成コースの実習

- ★ **教職専門実習 II**  
学校参観・教育委員会の訪問や学校でのジョブ・シャドーイングをおこないます。
- ★ **学校支援実習 II**  
授業・学校行事等に参画しチーム学校のあり方を検討します。  
学部新卒学生のメンターも務めます。
- ★ **学校課題対応実習**  
公開研究や校内研修の企画・運営に参加します。

	月	火	水	木	金
1	理論	実践	実践	理論	実践
2	理論	実践	実践	理論	実践
3	理論	実践	実践	理論	実践
4	理論	実践	カンファレンス	理論	実践
5	理論	実践	実践	理論	実践

● 理論 ● 実践 ● カンファレンス

## 教育実践高度化コース(若手現職学生)の実習

- 次 **教職専門実習 I**  
先進的な研究校を参観します。
- 次 **学校支援実習 I**  
連携協力校の授業や学校行事等を支援します。
- 次 **教育実践高度化実習**  
連携協力校で授業研究・提案授業等を実施します。

## 教育実践高度化コース(学部新卒学生)の実習

- 次世代 **長期インターンシップ I・II**  
教員の仕事を総体として理解するとともに、実践から課題を見いだします。

## カンファレンス(週間・月間)への参加

現場での実習や支援を振り返って大学教員からアドバイスを受たり、学生や教員で事例検討をしたりします。



## ラウンドテーブルへの参加・報告

5~6名の小グループで報告し討論することで、教育現場での実習や支援を省察し、次の活動へと活かします。県内外からの参加者を募り、大規模に開催します。



# 教員紹介



准教授 阿内 春生

研究  
テーマ 市町村議会を中心とした  
教育政策決定過程の研究

教職大学院では学校経営関連の授業も担当します！  
なじみのない分野と思わず一緒に頑張りましょう。



特任教授 太田 孝

研究  
テーマ 高等学校の実践的な国語科  
の指導法・学校のマネジメン  
ト・教員研修

大学における学びを、その先の学び、生涯を通じ  
ての学びに接続することについて考察、実践、追  
究をします。



特任教授 小川 裕

研究  
テーマ 小学校音楽教育における指  
導法の研究および教材開発

子どもたちが楽しく音楽にかかわり、音楽を学習す  
る活動そのものを楽しんだり、音楽に感動したりす  
るような授業づくりを追究します。



特任教授 片寄 一

研究  
テーマ 特別支援教育を推進するた  
めの学校間連携についての  
実践研究

子ども一人一人の教育的ニーズに対応した指導や  
支援の方法について一緒に考えていきましょう。



教授 菅家 礼子

研究  
テーマ 質の高い身体教育

学ぶ喜びを味わいながら、人間存在の基盤である  
身体の可能性を開く体育授業の実現を目指して研  
究しています。



特任教授 小檜山 宗浩

研究  
テーマ 特別支援学校等における未  
来に向けた教育環境の整備  
の在り方について

障がいのある児童生徒等が、新しい時代に生きるための資質・  
能力を着実に身に付けるなど、それぞれの個性を生かした社  
会貢献ができるよう、実践を基にして研究を進めていきます。



准教授 坂本 篤史

研究  
テーマ 教師の学びを促す  
授業研究のあり方

授業実践の分析と教師の学びについて研究してい  
ます。授業の事実から共に学んでいきましょう。



特任教授 佐藤 和彦

研究  
テーマ 国語科学習指導法の研究/  
カリキュラム・マネジメントと  
学校経営

新たな福島教育創成に向けて、「震災体験が切り  
拓いていく教育」について共に考えていきましょう。



特任教授 糞田 惣男

研究  
テーマ 社会科教育の課題と魅力あ  
る授業づくりについての研究

小・中学校での社会科教育の課題から、子どもに  
とって魅力ある社会科の授業を一緒に考えていき  
ましょう。



特任教授 鈴木 昭夫

研究  
テーマ 「深い学び」をめざす理科授  
業の在り方に関する研究

理科教育を通して、「主体的・対話的で深い学び」に  
ついて実践的に研究し、これからの教育について  
考えてみたいと思います。



教授 谷 雅泰

研究  
テーマ 明治期地方教育行政史/  
デンマークの教育

公教育とはどうあるべきか、歴史や外国の事例か  
ら考えています。実践の基盤になる教育観を鍛え  
ましょう。



教授 鶴巻 正子

研究  
テーマ 知的障害や発達障害のある  
子どもの読み書き支援の実  
践的研究

特別支援教育のさらなる発展と指導力向上をめざ  
し、ニーズのある子ども達への支援を一緒に考え  
ましょう。



教授 中田 スウラ

研究  
テーマ 生涯学習社会における学校・  
家庭・地域教育の連携・協働  
に関する研究

持続可能な社会の創造を進める対応力を生涯にわ  
たり獲得するため、学校・家庭・地域教育に必要な  
連携・協働について探究しましょう。



准教授 橋本 美智子

研究  
テーマ 学習指導法の研究と  
教材開発

中学校英語教諭、教頭、教育委員会指導主事の経  
験を基に、教員に求められる資質・能力、実践的な  
力について一緒に考えていきたいと思っています。



特任教授 浜島 京子

研究  
テーマ 子どもの家庭生活と  
その教育

家庭生活に対する意識や態度の変容(高まり)をも  
たらす家庭科のあり方について、一緒に考えてい  
けたらと思います。



教授 松下 行則

研究  
テーマ インテグレイティブ・シンキ  
ング、「学び合い」、カルタ  
でつくる道徳授業の研究

学級経営や生徒指導を視野に入れた道徳科授業づ  
くりを通して、「すべての子どもの価値観が尊重さ  
れる」学校を実現しましょう。



教授 宗形 潤子

研究  
テーマ 子どもの主体性、学びに関  
する研究/生活科における  
砂遊びについての研究

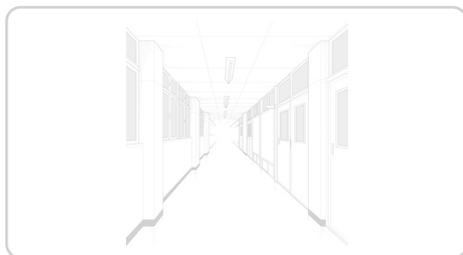
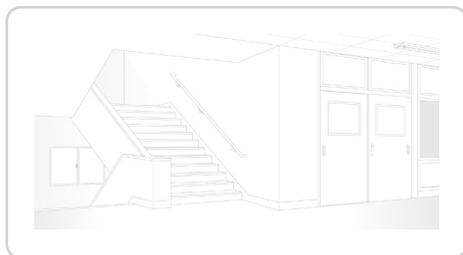
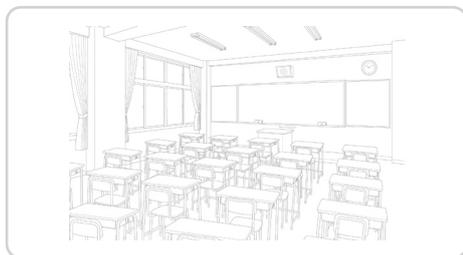
現場の先生方と子どもの学びや授業について一緒  
に悩み、考え、よりよいものを目指しています。仲  
間となって一緒に学びましょう。



教授 森本 明

研究  
テーマ 算数・数学の授業と  
カリキュラムの構成

思考する愉しさを伝えたい。その実現には実践を  
ふまえた教材や授業の研究が必要かつ重要だと考  
えています。



## 在学院生の声



教育実践高度化コース 2年

高橋 佑輔

(福島大学卒 学部卒業生)

教職大学院は学部卒業生と現職派遣院生が現場経験の差に関わらず同じ学年、対等な立場として学びを進めています。様々な年代、校種、立場の人がいることにより物事や事象を多面的・多角的に捉えることができるため新たな発見や気づきを得ることができます。子どもたちにも求められている「協動的な学び」を大人が実践することが意義あるものであり、教職大学院の良さであると感じています。また授業外での現職派遣院生との関わりの中で、大学の講義だけでは学ぶことの難しい実践知に触れることができ、今後の実践に向けた学びになることも教職大学院の強みであると思います。外出自粛期間でより一層必要性を感じることができた「他者との関わり」を大切にしながら学び続けていきたいです。



教育実践高度化コース 2年

國友 靖展

(小野町立小野中学校籍 現職派遣院生)

教師として「授業で勝負したい」という願いのもと、教科の専門性や授業力のスキルアップを目標に大学院に進学しました。入学当初は、教師として生徒とともに毎日の学校生活を送ることができない状況に、現場を離れたことへの不安や後悔もありました。しかし、日々の授業やカンファレンスを通して、現場で抱えてきた課題や悩みを明らかにし、理論と結びつけて自分を省察していくことで、現場を離れて「学ぶ」意義を実感していきました。この2年間は、現場で教壇に立つ新たな自分の姿をイメージし、さらなる高みを目指して学ぶことができるかけがえのない時間です。



ミドル・リーダー養成コース 2年

佐藤 祐介

(会津若松市立謹教小学校籍 現職派遣院生)

教師は日々、多忙な業務に追われ、自分の中での学びや実践をじっくりと振り返る時間を確保することができないのが現状です。教職大学院では、この学校現場を客観的に捉えながら「理論と実践の往還」の理念のもと、学びを深めることができます。また、これから現場に出ようとする学部卒の院生と現場での経験を積んだ現職の院生が、それぞれの立場から議論することで、それまでの自分の中にはなかった新たな気づきを得られること、課題を共有し、ともに考えてくれる仲間を得られることも、教職大学院の大きな魅力だと感じています。



特別支援高度化コース 2年

渡邊 幸治

(福島県立郡山支援学校籍 現職派遣院生)

特別支援教育高度化コースでは、特別支援に関する理論と実践について学びます。理論を学び直せるので、これまでの自身の実践を振り返ることができる貴重な時間となっています。連携協力校での実習では、所属校とは違う立場で学校現場をみることで、教育現場が抱える様々な課題を客観的に把握することができます。実習の振り返り活動としてのカンファレンスでは、実務家教員と研究者教員、他学年の院生とディスカッションを行います。それぞれの豊富な経験や専門性の視点からの助言により、多くの「気づき」や「学び」を得ることができます。

## 福島大学 教職大学院Q & A

Q1

今までの大学院修士課程との違いは何ですか？

大きな違いは、学校現場を通して高度な実践力を身につけることを目指していることです。

Q2

修士論文は書くのですか？

修士論文の提出は求めません。代わりに、日頃の実践を理論的にみつけて省察した成果をまとめた実践報告書を作成します。

Q3

学校における実習はどの学校でやることになるのですか？

大学近郊の連携協力校(附属学校を含む)で実習を行います。

Q4

プロジェクト研究は、小・中・高・特別支援等の校種や教科などは、自分の希望するもので取り組めるのでしょうか？

はい。自身が希望する校種、教科での実施が可能です。実施テーマについては、実習校とのすり合わせが必要となります。

Q5

教職大学院の施設や設備等、学習環境はどのようになっていますか？

大学ではPCタブレット、プロジェクター等のICT環境が整備された共同スペースがあり、専用の机が貸与されます。もちろん学内の図書館等も利用可能です。

Q6

教職大学院に入学する前や在学中に教員採用試験に合格した場合、採用名簿登録期間を延長してもらえますか？

福島県教育委員会では申請により、在学期間(2年間)について採用名簿搭載期間の延長が可能です。手続き等は教育委員会にお問い合わせください。

## 取得できる学位・免許

教職修士(専門職)の学位が2年間の課程で取得できます。  
以下の専修免許状が取得できます。

- 幼稚園教諭専修免許状
- 小学校教諭専修免許状
- 中学校教諭専修免許状 (国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語)
- 高等学校教諭専修免許状 (国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、保健体育、家庭、英語  
農業、工業、商業、水産、福祉)
- 特別支援学校教諭専修免許状 ※特別支援教育高度化コースのみ
- 養護教諭専修免許状
- 栄養教諭専修免許状

## 募集概要

※内容は予定であり変更する場合があります

### 求める学生像(アドミッションポリシー)

地域の教育課題について理解を深め、幅広い視野を備えるとともに、授業力、マネジメント力など高い実践力を身につけ、常に学び続け、教育課程の改善や学校改革をけん引する教育のミドル・リーダーをめざす学生を求めます。

### 募集人数と選抜方法

詳細は、大学webサイト及び学生募集要項をご覧ください。

■ **募集人数** 16名(うち現職教員8名程度)

■ **出願資格** 大学を卒業した者(卒業見込みの者)で、教員免許状(小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・養護・栄養の普通免許状一種)を取得(見込みを含む)している方

#### ■ 選抜方法



**対象**：出願資格を有している方  
**検査項目**：小論文、学習履歴レポートに基づく面接(口述試験を含む)、出身大学(学部)の成績証明書



**対象**：出願資格を有し、出願時まで3年以上の教職経験及び出願年度内に勤務実績のある方  
**検査項目**：実践記録レポート、面接(口述試験を含む)



**対象**：出願資格を有し、以下に該当する方  
● 福島大学人間発達文化学類を卒業見込みである  
● 卒業研究指導教員による推薦を得ている  
● 実践研究の課題が明確で卒業後の入学を確約できる  
**検査項目**：学習履歴レポート、成績証明書、面接(口述試験を含む)

### 学 費

入学金 282,000円

授業料 535,800円(年額)

※福島県教育委員会派遣の方は入学金の半額を免除します。

福島大学大学院人間発達文化研究科教職実践専攻(教職大学院)は、令和2年度より専門実践教育訓練給付金制度が利用できる対象校に指定されました。詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください。

▶ [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou\\_roudou/jinzaikaihatsu/kyouiku.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaihatsu/kyouiku.html)

お問い合わせ



人間発達文化学類 支援室

〒960-1296 福島市金谷川1番地

TEL 024-548-8101 FAX 024-548-3181